



## 基準価額の主な変動要因

基準価額は下落しました。米国の金融引き締め観測を背景にハイテク銘柄が売りに押される中、保有する「フードテック（FoodTech）」関連株式が下落したことがマイナス要因となりました。個別銘柄では、フードデリバリー事業を展開するドイツのデリバリーヒーローやインドのゾマトなどの株価が下落しました。一方で為替は、米ドルなどが円に対して上昇（円安）したことが基準価額のプラス要因となりました。

## 投資環境について

世界株式市況は下落しました。当期首から11月にかけては、米国の債務上限が引き上げられたことや良好な企業決算発表が好感されたことなどから上昇しました。12月に入ると、新型コロナウイルスのオミクロン株の感染拡大により欧州で行動制限措置が強化されたことや、米国で大型歳出法案の成立が不確実になったことを受け、下落しました。その後は、デルタ株と比べてオミクロン株の重症化率は低いのではないかとの見方が広がり懸念が後退したことや、FOMC（米国連邦公開市場委員会）を無難に通過したことを受け、株価は反発しました。2022年1月から当期末にかけては、インフレ懸念や米国の金融政策に対する不透明感などから、軟調に推移しました。

## フードテック産業について

フードテック産業では、さまざまな分野における関連企業の成長や新たな取り組みが確認されました。

農業・畜産テック分野では、農機メーカー大手の「ディア」が完全自律型トラクターを発表しました。同製品は、カメラとAI（人工知能）を活用により周辺環境を認識して自律走行を行うことができ、従来のGPS活用型トラクターの進化版と言えるもので、農業の労働力不足問題の解決への貢献が期待されます。

食品加工イノベーション分野では、テクノロジーを活用した厨房器具等の製造販売を行う「ミドルビー」が、外食産業のフードロスや食品コストの上昇、労働環境改善などへの対応ニーズの拡大を受けて受注を増加させました。

オンライン飲食テック分野では、フードデリバリー業界大手「ウーバーテクノロジーズ」の2021年7-9月期のデリバリー部門の売上高が前年同期比で約2倍の22.4億ドル（約2,500億円）、サービス利用者数は前年同期比40%増の1億900万人となりました。国内では「マクドナルド」による「パーク&ゴー」（モバイルオーダーによる注文送品を駐車場で受け取れるサービス）の拡大などが目立ちました。

次世代食品分野では、環境問題への意識の高まりを受けて「ケンタッキーフライドチキン」が植物由来の代替肉フライドチキンの販売を全米店舗で開始したことが話題となりました。また、「スターバックス」ではソイミルクやアーモンドミルク、オーツミルクなどの植物性ミルクを活用した商品の普及が進みました。

## 今後の市場展望

今後の世界株式市場は底堅い推移を想定します。オミクロン株の広がりによる感染者数の増加により、欧米の一部において入院者数の増加が見られる点は懸念材料です。しかし、「重症化率は低い」との市場の見方に変わりがない限り、懸念による株価下落は一時的と考えます。一方で、FRB（米国連邦準備制度理事会）高官発言などにより、米国の金融引き締めペースにおける市場の見方に変化が生じないか注視が必要です。

フードテック関連株式市場の中長期的な観点としては、巨大なテクノロジー企業によるフードテック分野への投資や、既存の食品関連企業による自社製品・サービスへの最新テクノロジーの活用が加速する見込みです。各国政府も、国民の健康推進や医療費削減、農家の高齢化対策、地球環境負担の軽減などを目的に、フードテックへの政策支援を強化していく見込みで、フードテック産業の成長余地は大きいと想定されます。今後短期的には米国金融政策の動向に株価が左右される可能性があると考えられるものの、中長期的にはフードテック産業の成長に応じてフードテック関連銘柄の株価が上昇するとの見通しです。

## 今後の運用方針

当ファンドは、日本を含む世界の「フードテック」関連株式に投資し、信託財産の成長をめざします。フードテック産業の中心に位置する、テーマ性が濃い、大型のテーマ代表銘柄の中から、将来にわたって強固な競争力をもとに業績拡大を継続できると見込まれる企業への厳選投資を行うことで、フードテック産業の構造的な成長が、ファンド自身の成長にダイレクトにつながるよう運用してまいります。

## 主な資産の状況（2021年12月末時点）

《主要な資産の状況》

※比率は、純資産総額に対するものです。

資産別構成			通貨別構成		合計100.0%
資産	銘柄数	比率	通貨		比率
外国株式	20	99.3%	米ドル		53.8%
			ユーロ		19.6%
			インド・ルピー		7.5%
			ノルウェー・クローネ		6.5%
コール・ローン、その他		0.7%	スイス・フラン		5.0%
合計	20	100.0%	香港ドル		3.6%
			フィリピン・ペソ		3.4%
			日本円		0.6%
			英ポンド		0.0%
			オフショア人民元		0.0%

国・地域別構成		合計99.3%	株式業種別構成		合計99.3%
国・地域名	比率		業種名	比率	
アメリカ	48.7%		一般消費財・サービス	33.9%	
ドイツ	13.3%		素材	25.3%	
インド	7.5%		資本財・サービス	22.4%	
ノルウェー	6.5%		ヘルスケア	8.6%	
オランダ	6.3%		情報技術	5.7%	
カナダ	5.0%		生活必需品	3.4%	
スイス	5.0%				
中国	3.6%				
フィリピン	3.4%				

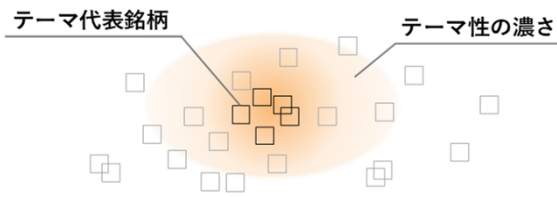
組入上位10銘柄				合計60.2%
銘柄名	サブテーマ	国・地域名	比率	
ZOETIS INC	農業・畜産テック	アメリカ	8.6%	
DOMINO'S PIZZA INC	オンライン飲食テック	アメリカ	6.6%	
TOMRA SYSTEMS ASA	食品加工イノベーション	ノルウェー	6.5%	
KONINKLIJKE DSM NV	食品加工イノベーション	オランダ	6.3%	
GEA GROUP AG	食品加工イノベーション	ドイツ	5.8%	
MIDDLEBY CORP	食品加工イノベーション	アメリカ	5.7%	
TRIMBLE INC	農業・畜産テック	アメリカ	5.7%	
CHIPOTLE MEXICAN GRILL INC	オンライン飲食テック	アメリカ	5.1%	
NUTRIEN LTD	農業・畜産テック	カナダ	5.0%	
GIVAUDAN-REG	食品加工イノベーション	スイス	5.0%	

サブテーマ別構成		合計99.3%
サブテーマ名	比率	
農業・畜産テック	23.6%	
食品加工イノベーション	38.3%	
オンライン飲食テック	33.9%	
次世代食品	3.4%	

- ※ 業種名は、原則としてS&PとMSCI Inc.が共同で作成した世界産業分類基準（GICS）によるものです。
- ※ 外国株式の国・地域名については、原則としてMSCI Inc.が提供するリスク所在国・地域に基づいて表示しています。
- ※ サブテーマは、大和アセットマネジメントの分類によるものです。
- ※ 比率は、純資産総額に対するものです。

## 世界の「フードテック」代表銘柄に投資

図表1：当ファンドの投資イメージ



当ファンドでは、世界の変革をとらえ、未来を見据えた有望なテーマへの投資機会を提供します。当ファンドが対象とするテーマは、循環的ではなく「構造的」な成長が見込まれ、長期投資に適したテーマです。

世界の株式市場の中から、テーマ性の濃い優良銘柄を吟味したうえで、テーマ代表銘柄に投資を行います。テーマの成長がより真っ直ぐにファンドの成長につながりやすい点が特徴です。

## フードテックの構造的な成長

### フードテック = 食 × テクノロジー

フードテック (FoodTech) とは、食 (Food) とテクノロジー (Technology) を融合させ、イノベーションを発生させることで、巨大な食料問題を解決する新たなビジネス領域です。

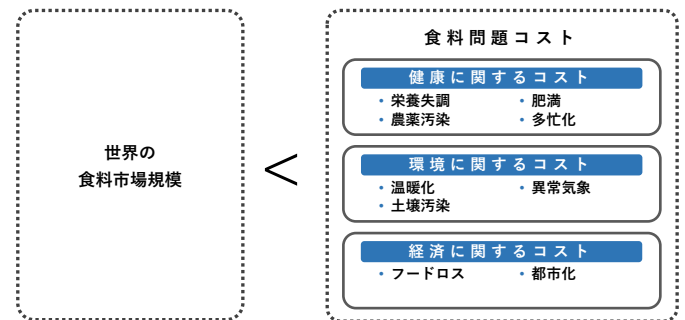
図表2：フードテック=食×テクノロジー



### 巨大な食料問題コスト

世界の食料市場は自動車市場を上回る巨大市場である一方で、「健康」「環境」「経済」などに関する食料問題コストは、巨大な食料市場規模を上回ると言われています。

図表3：巨大な食料市場規模を上回る食料問題コスト



### フードテックにより食料問題を解決

深刻な食料問題の解決手段としてフードテックの活用が目まぐるしく注目を集めています。適用分野は食料生産・加工の効率化からフードロスの削減まで多岐にわたります。

図表4：フードテックを活用した食料問題の対処事例

食料問題事例	フードテックによる対処事例
農業従事者の減少	ロボットによる収穫自動化
人口増加による食糧不足	農産物工場での安定生産
安心・安全な食への需要	衛生的な食品自動加工
フードロスの増加	食料保存技術の進歩

### さまざまな新規ビジネスが誕生

テクノロジーの進化を背景に「食」に関わるさまざまな新規ビジネスが誕生しています。各国政府も、国民の健康推進や高齢化対策、環境負担軽減を目的に政策支援を強化していく見込みです。

図表5：フードテックを活用したさまざまな新規ビジネス

<b>スマート農業</b> 農機の自動運転、ロボットによる収穫の自動化、ドローンを活用した農場管理	<b>高栄養価食品の開発</b> スーパーフード（ごく少量で栄養・健康成分を効率的にとれる食品）の提供
<b>環境負荷低減・農産物工場</b> LED・培養液を使用し、温度・湿度・空調などが管理された衛生的な農産物工場	<b>培養肉の研究</b> 動物細胞から培養された肉の製造
<b>調理の効率化</b> 調理・配膳・下膳・洗浄・片付けなどさまざまな作業を行うフードロボット開発	<b>フードデリバリー</b> スマホを活用した注文・決済／フードロスが少ない自宅調理用ミールキット

※後述の当資料のお取り扱いにおけるご注意をよくお読みください。 ※出所 [図表2,3,4,5] 各種資料より当社作成。 ※当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドへの組み入れや今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

## Ⅰ ファンドの目的・特色

### ファンドの目的

- 日本を含む世界の「フードテック」関連株式に投資し、信託財産の成長をめざします。

### ファンドの特色

1. 日本を含む世界の「フードテック」関連株式に投資します。

(注)「株式」…DR(預託証券)を含みます。

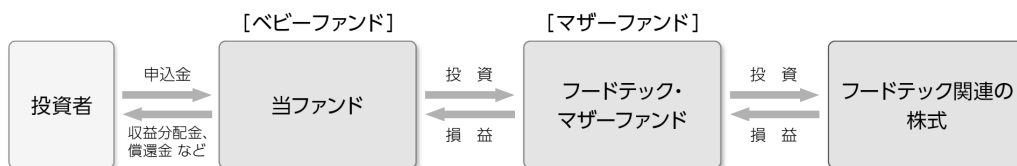
#### ◆フードテックとは・・・

「フードテック (FoodTech)」は、食 (Food) とテクノロジー (Technology) を組み合わせた造語です。食と日々進歩するテクノロジーを融合させ、イノベーションを起こす新たなビジネス領域を意味します。

#### ◆ポートフォリオの構築にあたっては、以下の方針を基本とします。

- テーマに関連すると考えられる企業を投資対象銘柄として選定します。
- 投資対象銘柄の中から、テーマ関連事業の売上高やテーマ関連事業売上高の総売上高に占める比率の見通し等を勘案し、10~20銘柄程度を組入銘柄として選定します。
- テーマ銘柄としての代表性や流動性等を考慮し、各銘柄の組入比率を決定し、ポートフォリオを構築します。

2. 当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行いません。



※くわしくは「投資信託説明書 (交付目論見書)」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

## Ⅰ 投資リスク

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の変動要因は、以下のとおりです。

「株価の変動 (価格変動リスク・信用リスク)」、「集中投資のリスク」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「その他 (解約申込みに伴うリスク等)」

※新興国には先進国とは異なる新興国市場のリスクなどがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※くわしくは「投資信託説明書 (交付目論見書)」の「投資リスク」をご覧ください。



## Ⅰ ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 〈上限〉 3.3% (税抜 3.0%)	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 (信託報酬)	年率 1.408% (税抜 1.28%)	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。
その他の費用・ 手数料	(注)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

(注)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等」をご覧ください。

設定・運用：

**大和アセットマネジメント**

Daiwa Asset Management

商号等

大和アセットマネジメント株式会社

加入協会

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号  
一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会

### 当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和アセットマネジメント株式会社が作成したものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認くださいのうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失はすべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆さまの実質的な投資成果を示すものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。記載する投資判断は現時点のものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料中で個別企業名が記載されている場合、あくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。
- 分配金は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。



## フード&amp;テクノロジー関連株式ファンド（資産成長型）（愛称：フードテック） 取扱い販売会社

販売会社名（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
株式会社愛媛銀行	登録金融機関	四国財務局長(登金)第6号	○			
株式会社北九州銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第117号	○	○		
株式会社東北銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第8号	○			
株式会社もみじ銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第12号	○	○		
株式会社山口銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第6号	○	○		
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○	○		○
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第8号	○			

上記の販売会社については今後変更となる場合があります。また、新規のご購入の取り扱いを行っていない場合がありますので、各販売会社にご確認ください。